

都立八丈高校全日制の学級減と教員削減の中止を求める意見書

本年10月11日、東京都教育委員会は「平成31年度東京都立高等学校等の第一学年生徒の募集人員等について」の中で、都立八丈高校普通科の学級数を3学級から2学級に、募集人員を120人から80人に削減することを公表しました。これに伴い、教員の数も今後、削減される可能性があります。

今回のような突然で急激な変更は、次の3点で教育環境に多大な影響を及ぼすものと考えられます。

1. 八丈高校の生徒は学力に差が大きく、習熟度別にていねいに対応していく必要があります。これまで3クラス分けによって適切に学習を進めてきた経緯があります。2クラスになり教員が減ってしまうことで、こうした個別指導を含めた、きめ細かな指導が困難となり教育の質の低下が懸念されます。
2. 八丈高校の生徒の進路は、就職、進学（専門学校、短大、大学）ときわめて多様です。教員が減ることで、様々な進路希望に対して十分な指導と対応ができなくなると考えられます。
3. 様々な部活動で遠征する際には教員が引率していますが、教員が減少すると引率の割り振りが難しくなるとともに教員への負担が増加し、自由な部活動が制限されます。

八丈高校の学級減と教員削減は、進行している八丈町の人口減少や経済の衰退を容認するような施策であり、八丈町議会として到底受け入れられるものではありません。

八丈町議会は、東京都教育委員会に対し、今回の決定を中止し、都立八丈高校の現状を維持するよう、強く要望します。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成30年12月10日

八丈町議会議長 奥山博文

東京都教育委員会 殿